# 被災地視察報告書IN熊本

(真政会)

## 災害ボランティアセンターの課題とは

- 視察日 平成28年10月12日(火)
- ・視察先 熊本市社会福祉協議会 災害ボランティアセンター





・担当者 ボランティア・市民活動センター 所長 宮原栄志 氏

#### ★熊本大地震発生時からの主な地震 (熊本地方抜粋) (平成28年)

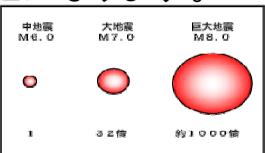
日付	時刻	マグニチュード	震度
4/14	21:26	6.5	7
4/14	22:07	5.8	6弱
4/15	00:03	6.4	6強
4/16	01:25	7.3	7
4/16	01:45	5.9	6弱
4/16	03:55	5.8	6強
4/16	09:48	5.4	6弱
8/31	19:46	4.9	5弱

- \*阪神淡路大震災のマグニチュードは7.3 震度7
- \*東日本大震災のマグニチュードは9.0 震度7

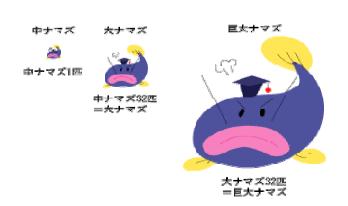
## 【マグニチュードと震度】

マグニチュードは1増えると地震のエネルギーが32倍になります。マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の32個分のエネルギーを持っていることになります。





※マグニチュードが1違うと地震エネルギーは約32倍



## 災害ボランティアセンターの立ち上げ

- ・ 熊本市長から熊本市社協への要請を受け立ち上げた
- ・現在のボランティアセンターは東部浄水場の敷地内に開設





## ボランティアセンターの役割

- ★災害ボランティア活動とは?
- ・被災者の自立と生活再建を支援することを目的とする。
- 被災された方々の困りごと(<u>二一ズ</u>)に基づく活動を行う。



復旧(家庭内外の片づけ、家財の移生活・福祉(衣食住、要援護者対応情報(炊き出し、配布品の場所)



(当時のマッチング風景)

- ★何処にボランティアセンターを開設するのかが重要
- ・公共交通を利用しやすい所(やむを得ない場合はシャトルバス)
- ・駐車スペースが十分に確保できる所(学校は避難者が多数のため不可)
- ★ボランティアの推移
- ・発災当初は300人~1,000人のボランティア/日であったが順次減少し、現在は土日のみの運営で20人~30人程度の受け入れ。
- ・ボランティアでできることは90%以上が終了したと判断し、10月末をもって現在のボランティアセンターは閉鎖した。その後は市社

災害ボランティア

協で対応している。

★ボランティアを証明する腕章

#### 社協の全国網の力は偉大なり!!



- ★情報の錯誤
- 不足する物資の情報は流れるが、足りている情報は流れないので、集積場が混乱した。
- ・災害ボランティアは復旧支援を行い、避難所運営は行政が 行った。

- Q 議員の行動は?
- A 全市的に被害が甚大であったため、地域のキーマンとして活躍された。
- Q 発災時における災害弱者の対応は?
- A 福祉関係の民間施設を福祉避難所とし、受け入れ体制を整えたが、自宅等での避難も余儀なくされた。
- Q 今後の社協の体制は?
- A 10月末をもって災害ボランティアセンターを閉鎖し、市社協で継続して行う。



ちょっと 一息

# 熊本城





当時の上空から見た車中避難者



・熊本市内仮設住宅 ある住民の方は、「皆が他人で あるため、自治会組織を立ち あげ諸問題を解決していく必 要があると感じている」と仰っ ておられました。

## 益城町の現状



庁舎の壁が破損したままであったり、ブロック壁に亀裂が残ったままの状態が残っていた。そのような中、一部プレハブ庁舎で対応しておられます。



ブロック塀が損傷し、フロックボルトルト

きれいに除去されている民家

倒壊したブロック塀



益城町役場近くの家屋の屋根にはビニールシートをかけたところが多くみられた

手前左側の家は押しつぶされ倒壊(まだ新しそうな家屋)



#### 危険と診断され家へ 入ることができません





完全に押しつぶされた 倒壊家屋

【まとめ】

# 了受援力」

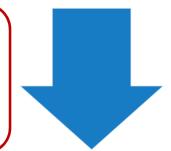
#### キーワードは「受援力」

- 熊本県、佐賀県は地震が少ないという認識があり、 どこかに油断というものが存在していたのではない か?実際に大規模地震が起こり、支援計画はあっ たが、その中で、受援計画が軽んじられていたと思 われる。従って、教訓として受援力の重要性を認識 しました。
- 災害弱者が弱者のまま、放置されない社会を実現する方策を改めて考えていかなければなりません。

#### ボランティアを受け入れる力

#### 救援物資を捌く力

発災当初、現地では救援物資を捌く人手が不足したため、配布に手間取った。また、日に日に増えるボランティアを捌くこともままならなかった。



重要なのは受援力

# 転ばぬ先の杖

備えあれば憂いなし

天災は忘れたころにやってくる

# ご清聴ありがとうございました

